



十津川村立十津川中学校 学校だより 3月

令和6年3月22日
文責 前木伸一

令和5年度修了式

～ 桜梅桃李 (おうばいと우리) 自分らしさを大切に ～

37名の1・2年生の皆さん、各学年の学業修了おめでとうございます。令和5年度の教育活動を無事に修了し、修了証をお渡しできることをとても嬉しく思います。皆さんがこの修了証を手にするのは、皆さんの努力はもちろん、ご家族、地域の皆さん、先生方の温かいご支援があったおかげです。感謝の気持ちを大切にしてください。皆さんの頑張りを祝うように十津川でも桜が咲き始めました。皆さんに「桜梅桃李 (おうばいと우리)」という言葉を紹介합니다。桜は桜らしく、梅は梅らしく、桃は桃らしく、李 (すもも) は李 (すもも) らしく、それぞれがその特性を生かし、ありのままの姿で咲き誇る。だから、あなたもあなたらしさを大切にし、あなたらしい美しい花を咲かせてください。というような意味になります。この春休み、桜をはじめ十津川の豊かな自然を愛 (め) でながら、自分らしさを大切に成長するための、新学年の目標・生活・学習姿勢のあり方について考えを深め、新年度の準備に繋げてください。4月8日、新たな学年の希望に満ちた元気あふれる皆さんに会えることを楽しみにしています。



第12回本校卒業証書授与式

～ 後輩が伝統の継承を誓う ～

3月13日、中学校3カ年の課程を修了し、たくましく成長した3年生が卒業しました。在校生もしっかりした態度で式典に参加し、厳粛な雰囲気を作ってくれました。送辞と式辞の一部を紹介します。

《 送辞 》 三年生の皆さんはいつも笑顔で明るく、最高学年として僕達を正しい道へと導いてくれました。そんな三年生の皆さんとの日々も今日で最後だと思うと、寂しく心細く感じますが、三年生の皆さんの持ち前の明るさや、何事も真剣に取り組む姿を目標とし、頑張っています。そして、三年生の皆さんが守り築き上げてきた、**この十津川中学校の伝統を受け継ぎ、後の代へと引き継いでいきます。**

《 式辞 》 戦国時代から安土桃山時代に、茶道・茶の湯を確立した千利休の教えの中に、「規矩作法 (きくさほう 基本という意味) 守り尽くして 破るとも 離るとても 本 (もと) を忘るな」という和歌があります。稽古や修行の段階を表現する「守・破・離」という言葉は、この歌の中から引用したものだと言われています。私はこの和歌で「守・破・離」以上に重要な言葉が、最後の「本を忘るな」であると考えます。皆さんにとって忘れてはならない「もと」とは何でしょうか。それは、皆さんをここまで大切に育ててこられた保護者の皆さんをはじめご家族です。また、雄大な自然・歴史・伝統・文化・人情を有し、皆さんを支えたこの十津川村でもあるはず。この三年間で守るべき・学ぶべき基本を身につけた皆さんは、今後「破」・「離」の段階に進みながら成長されます。その成長の過程で、絶対に忘れてはならない、大切なことが「本」、家族や故郷 (ふるさと) です。「本」無くして「守・破・離」は存在しません。千利休の「本を忘るな」、この教えを人生の指針として、今後の活躍と成長に繋げてください。

在校生代表の送辞は、先輩方への感謝を伝えると共に、本校の伝統継承を誓う力強さも感じられる内容でした。令和6年度以降も皆さんの力で、十津川中学校を素晴らしい学校にしてください。そして皆さんも義務教育期間中にしっかり基本を学び、その基本を大切にしながら将来の「破」・「離」の段階に繋がられるようにしてください。

後になりましたが、保護者の皆様、お子様の各学年での学業修了をお慶び申し上げます。また、本年度も本校学校教育にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございました。来年度も生徒の成長のため、職員が一丸となり取り組みます。今後とも何卒よろしくお願い致します。

